

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEGONKids 天満宙組			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日 ～ 令和8年2月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日 ～ 令和8年3月1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	将来を見据えて、社会的な基本スキル（礼儀・挨拶・ルール・マナーなど）や自分らしく生きる力の習得を目指している	- 人と会ったら挨拶ができる。 - 日々出会ったら、積極的に挨拶をすることを練習。 - 公共交通機関や地域施設を利用している。 - SSTで実践的な練習の実施。	- 障がい理解の学習 - 自立訓練の実施 - 支援学校（自立活動）と連携を図り、専門的知識の習得
2	お子様や御家族様からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応している	各家庭色々な事情や相談ごとに寄り添い、色々な利用の手段の提案や配慮を行った。	- 相談を職員全体に周知して、どの職員でも同じ対応ができるように迅速に対応していく。 - さらに、研修・トレーニングでスキルの向上を図っていききたい。
3	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫している	活動プログラムが、マンネリ化すると利用離れに繋がるので職員全員でプログラムを考え子どもたちが経験したこと無いことをさせたいという気持ちを、全職員が共通認識を持ってプログラムを職員会議を通じて組み立てている。 また、地域との連携（子供食堂・イベントに参加）	- ニーズを整理し一人ひとりに合ったプログラムを作成していく。 - 過去にやったことのないプログラムを選定し取り入れていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時・緊急時対応マニュアルを保護者への共有。また、発生を想定した訓練が実施	定期的に避難訓練等は行なっているが、保護者への共有・連絡が不十分と感じている。	マニュアルの取り組みや災害時の対応については、面談時にや定期的にSNSを活用し更新をしていく。 また、保護者会や受け渡し訓練などを実施し災害時の方針の連携を図る。
2	職員の専門性の向上	虐待・身体拘束や災害等緊急時対応の研修は行なえているが、専門職が中心となる研修が行えていない。	職員会議での、専門職が中心となる研修を行ったり専門性のある研修を検討していく。 必要であれば、外部機関との連携を図る。
3	地域のお子様との交流の場が少ない	事業所内での人間関係で完結してしまうことが多い。	他事業所や地域の児童との交流の場の企画し、交流の場を増やす。